

# 衛藤えんよう 「満足」「笑顔」「希望」あふれる 大分市をつくる。

vol.1

春・夏  
2017

2月の選挙で頂いた4082票は、同行援護者の協力を得た障害者の方、杖を頼りに投票所へ行ってくださった高齢者の方々など、温かいお気持ちの一票一票であり、重みをひしひしと感じています。主力部隊は、企業や団体・組織ではありません。私を応援する輪に入って頂いたお一人おひとりの方々です。この思いを常に思い起こしながら、皆さんから託された議員としての活動に務めてまいります。

初心を改めてお伝えすると、私は政治家になることが目的ではなく、お年寄りや人生を振り返った際に「満足」を感じる。そして、子供たちがどんな困難な家庭や環境に生まれても、自分の未来に希望を感じ、明るい社会を夢見ることができ、「笑顔」あふれる世の中を築くことが、どんな施策より重要だと思ひ議員への道に舵を切りました。

これまでの私の貴重な経験を活かし頑張っております。これまで以上のご指導を心からお願いいたします。

選挙戦では多くの方から温かい励ましのお言葉を頂戴し、常に勇気も頂きました。しかし、公職選挙法は紙面での当選のお礼の表現を禁じています。申し訳ありませんが、お許しください。

## 衛藤 延洋 議会レポート Report ENY ETO

衛藤延洋 検索 ムッシュえんようレトロな喫茶店から 検索

ENYO ETO Report Vol.1 2017 春・夏

えんようレポート

第1号 平成29年5月発行

衛藤えんよう政策研究会 TEL/FAX097-574-6544

討議資料



### 市議会一般質問の 主要項目と答弁 <3月23日>

主な提案・答弁の抜粋

- ① 中小企業への育成と支援策。  
企業立地、創業環境の整備を前へ進めよう！  
Q 人口減少社会に対応できる産業力の強化、特異性のある企業立地に取り組み。そして、地元中小企業の底上げが必要だ。どの観点から取り組むのか。  
A 企業進出の新たな可能性調査を行い、企業誘致を戦略的に推進する。将来的に市場の拡大が見込める成長産業の集積を目指す。中小企業への支援については、課題やニーズを把握し、商工会議所や金融機関と連携し効果的・効率的に進めていく。
- ② 介護保険制度の改正について  
Q 地域包括ケアシステムが高齢者政策ではなく、まち全体の将来を視野に入れた都市づくりとしての認識に立つべきである。国の求める地域課題の把握の実行には基幹型の包括支援センターの設立を提案する。  
A 地域包括支援センターの機能強化を図るため、基幹型地域包括支援センターの設置も含め、調査・研究していく。
- ③ ラグビーW杯について  
Q 盛り上がり心が心配である。積極的な機運の醸成に取り組む必要がある。  
A これまでも市民が関心を持つ事業を実施してきたが、今後は庁内検討委員会を設置し、商店街とも連携しながら機運醸成に取り組む。
- ※この他に「市議会議員選挙の投票率の低下について提案しました。」



#### プロフィール

えんよう  
衛藤 延洋

平成29年 2月19日 大分市議会議員 初当選  
(2017) 厚生常任委員会委員  
地域活性化特別委員会委員  
広報委員会委員  
大分市国保運営協議会委員

国会議員政策担当秘書、  
行政書士、一級イベント業務管理士、  
認知症キャラバンメイト、くもん学習療法実践士、  
日本大学史学会員

#### 経歴

- 昭和32(1957)年11月 大分市生まれ
- 大分市役所25年間勤務
- 衆議院議員公設第一秘書
- 病院事務局長、介護老人保健施設事務局長、  
認知症グループホーム施設長
- 大分市行政評価外部システム導入リーダー
- 大分市つかこうへい劇団事務局長
- 大分県高校演劇祭審査員
- 大分市都市問題懇話会代表幹事
- 2002 FIFAワールドカップ  
イベントプロデューサー
- ラジオパーソナリティ(ムッシュえんよう)  
放送作家
- 大分舞鶴高校PTA副会長
- 明治大学大分県父母会長
- 大分マラソンクラブ会長
- 大道小・王子中・鶴崎工高卒、日本大学中退
- 小学6年生でサッカーを始める  
(大分市スポーツ少年団1期生)
- 青梅報知マラソン、白杵市民マラソン、  
三国峠さくらマラソン等を完走

#### 委員会

本会議の予備的審査機関として大分市議会では5つの常任委員会(総務・厚生・文教・建設・経済環境)で審議を行います。私は「厚生常任委員会」に所属しました。特別委員会は「地域活性化対策特別委員会」です。

#### 党派

党派は「新市民クラブ」に所属しました。現在、大分市議会において唯一党籍を持たない議員グループは「新市民クラブ」です。私はこの会派で4名の先輩たちと行動をともにしています。そして、これからも、常に市民目線で行います。

#### 対話集會のお知らせ

少人数からの対話集會を開催しています。3人でも5人でもお伺いし市政報告を行っていただきます。お気軽にご連絡ください。  
また、認知症の方や家族をサポートするためのお講演も行っています。お問い合わせください。

#### 寄付のお願い

衛藤えんよう政策研究会(後援会)では、衛藤延洋の政治活動を支えることを目的に「一口1,000円～」の寄付をお願いしております。用途は、広報誌印刷、郵送料、交通費など政治活動の財源として有効に使わせていただきます。皆様の温かいご協力をよろしくお願いいたします。なお、口座は下記のとおりですが、ご連絡頂ければお伺いいたします。

#### 個人寄付 お振込先

振込先 / 大分銀行本店営業部 振込先 / 大分県信用組合本店営業部  
普通口座 / 7594730 普通口座 / 4121738  
口座名義 / 衛藤えんよう政策研究会 口座名義 / 衛藤えんよう政策研究会

※なお、企業・団体献金はお受けいたしておりません。ご了承くださいませ。

#### 皆さんの声をお寄せください

地域での困りごと、行政への要望等、どんなことでも結構です。  
行政書士、そして大分市職員や国会議員公設秘書、医療法人事務長の経験を活かして誠実に対応します。  
お気軽にご相談ください。

〈事務所〉  
大分西部 / 大分市にしが丘3-11-4  
Mobile 080-5217-4141  
大分東部 / 大分市松岡4716-2  
TEL/FAX 097-574-6544  
議会控室 / 大分市荷揚町2-31(新市民クラブ)  
TEL 097-534-6111



# 衛藤えんよう、政治への熱い思い

2月の選挙を支えたボランティアがインタビューしました

**Q** これまで、いつ政治家へ転身するかかと思いましたが、今回、大分市議へ出馬した理由を聞かせてください。

**大** 分市職員・衆議院議員秘書・医療法人事務長という三者のどれが欠けても市議への挑戦はなかったと思います。

私は大分市職員時代、その多くを企画部や都市計画部に在籍し都市づくりの第一線で仕事をしてきました。これは市民の負託を受けて仕事をを行う市議会議員としてとても役立っています。そして代議士秘書の経験は、県内はもとより全国各地に人脈を広げることができました。秘書時代は、代議士の専門分野とも



認知症サポーター養成講座の講師として

いえる経済や外交、安全保障を中心に研究しましたので、その後、医療法人の事務長として着任した当時は、畑違いに戸惑うことも多く、また、医療・介護・福祉と多岐に亘り、とりわけ頻繁に制度が変わることから追いつくのがやっとでした。まだまだ勉強不足は否めませんが、この生命や健康に直接関わる民間での経験が政治の世界へと私の背中を押しました。

**Q** 議員秘書の経験は活かされていますか？どんな大分市を目指しますか？

**25** 年間勤めた大分市役所を早期退職して代議士の公設第一秘書になったのが48歳のとき。それから7年の国政の経験は、振り返ると国の役割から地方政治の在り方を考える上でいい経験になりました。

たまたま私が関わった外務省や経産省の役人がそうだったのかも知れませんが、議員も官僚も本当に懸命に仕事をします。会議が深夜になるのは当たり前、そして早朝から再び会議が始まることもしばしばです。官僚は寝る暇もなく数時間で朝の会議に向けての資料作りに追

うより、市民の皆さんと一緒に課題を前に進めていける、そんな内容の提言を議会で行うことが私の使命と考えています。そのためにも、市民の皆さんのご意見をお待ちしています。

**Q** 政治に関心を持つことについて、何かありますか？

**私** は佐藤・木下・釘宮の三代の市長に仕えました。佐藤益美市長の時代、広聴広報課に26歳から4年間在籍しました。着任した初日に尊敬する大先輩から、佐藤市長と広聴広報課の役割について教えを頂きました。佐藤市長の元で働いた4年間が行政マン、そしてこれまでの人生に大きな影響を与えています。

市長が市政運営の柱に据えたのは対話集会です。年間に150回のペースで毎夜、40人も入れれば一杯の自治公民館で住民の要望に耳を傾けます。私は、上司と同席すると共に、事前に地元要望の聞き取りや後日担当課の回答を自治会長へ届けるのが日課でした。

市長は都市計画図を指しながら都市づくりについて熱弁を振る、住民は、すし詰めの中うちわ片手に熱心に食い入ります。ときには、住



桜の前でミニ対話集会

われます。かつてマスコミは、省庁の前に深夜並ぶ官僚用タクシীর列を揶揄して批判したこともありましたが、彼らにとつて電車が無くなり自宅に帰る術はタクシー以外にはないのです。

ただ、官僚は国のことを考えるのが仕事です。地方のことを本当に考えている官僚は、ほんの僅少な一握りでしょう。私は日本の官僚ほど優秀な役人は世界を見渡してもいないと思います。しかし明治時代から続く官僚主導の中央集権制度そのものが大間違いだと思っています。

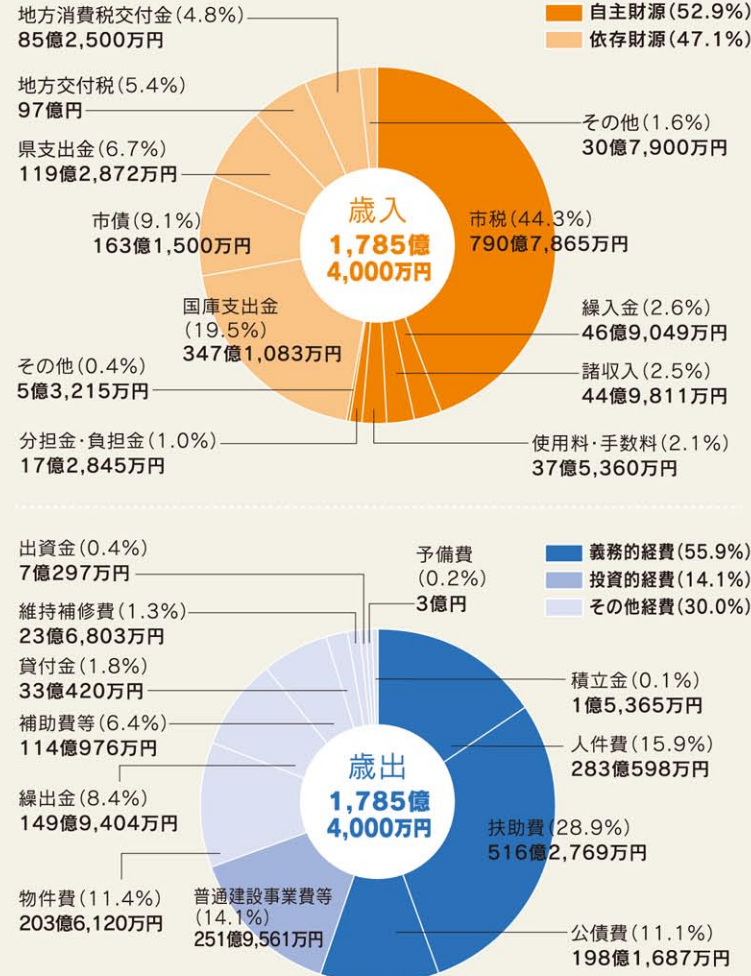
**貧** しい明治の時代、国民生活を向上させ国力を高め欧米の植民地にならないために富国強兵と殖産興業を国策としました。その国策を効率よく機能するために、権限や財源の経営資源を中央に集中させる官僚主導のシステムを築きました。

そして、第二次世界大戦後も焦土と化した食うや食わずの国を一日も早く復興・繁栄させるために官僚

民から皮肉交じりの質問を受けても常に市民目線で丁寧な答えを返しました。まさに住民自治、私はこれこそ政治の原点だと感じていました。また、市民に対する物事の考え方も直々に教えて頂きました。

**連** 日、住民の声に耳を傾け、市民の中心にいた佐藤益美市長は

**■大分市一般会計当初予算 1,785億4,000万円**  
大分市は、29年度当初予算のポイントとして、『総合計画』おおい創造ビジョン2024(28年策定)に掲げる施策の推進を図るとともに、防災、福祉、教育などの分野や産業力強化に向けた取り組みへ重点的に予算を配分したと説明しています。



※佐藤益美市長 1975年から1991年まで4期16年、大分市長を務める。2015年3月2日逝去。

私の政治の師匠ですが、時代は大きく変化をしています。政治をそばで学んだ経験を発展させながら時代に即応した「市民目線」で政治家としての務めを果たしていきたいと思えます。

**江** 戸時代、徳川宗家が君臨していましたが、仕組みは、江戸300藩による連藩国家でした。各々の藩

「地方創生」と謳われますが、地方が元気を復活するには、先進国型の仕組みである一定の権限や財源を地方へ移譲する仕組みを創ることだと考えます。

これは発展途上国に有効な開発経済型システムで、国民の生活水準がある一定に至るまでは効果的に機能しますが、我が国はGDPを見て、立派な先進国です。しかし、政治や社会の仕組みは発展途上国のままです。

